

「令和4年度いわて新農業人チャレンジファーム第10回研修を開催しました！」

第10回の研修は、令和4年7月22日(金)、23日(土)に、雫石町南畑のコテージむらで行いました。

今回の研修は、「岩手の花き栽培について」と題し、八幡平市花き開発研究センター・一般社団法人安代リンドウ開発の阿部潤氏から、本県の花き生産の現状やリンドウ栽培の歴史等について、講義していただきました。

本県の花き生産は、リンドウと小ギクが8割を占めており、いずれも露地で栽培されていることが特徴であるとの説明がありました。

また、リンドウの栽培は、昭和30年頃から長野県で山堀り株を使ったのが最初で、本県では、35年頃から岩手町や雫石町で始まり、52年に、岩手県が国内初のF1品種「いわて」を開発したことが、日本一の産地となり、その継続につながっているそうです。

このような、品種開発などの県を挙げての取組により、生産量は全国1位で、全国シェアの約6割を占めているという紹介に、受講生は、花き栽培に対して興味を深めたようです。

実習は、ピーマンの誘引と追肥の予定でしたが、22日は荒天のため、後日、作業の様子を動画等で補講することとし、トマトの管理や収穫を行いました。

23日は、天候が回復したことから、予定どおり誘引ヒモを使う方法で誘引をしました。

実習終了後には、中本研修指導員から、にんじん、さといも、ねぎなど、これからの管理について説明があり、じゃがいもの葉など害虫による食害の発生状況を確認しました。

第11回の研修は、7月30日(金)に、盛岡市の株式会社いわて若江農園様から野菜(トマト)経営についてお話を伺う予定です。



講義「岩手の花き栽培について」の様子



大玉トマトの管理について説明を聞く様子



ピーマン誘引用の支柱を打ち込む様子



ピーマンを誘引する様子